

天声人語

何か主張するわけでもない。新
聞社に入ってきた目出し帽の男
は、そこにいた記者たちにいき
なり散弾銃を向けた。腹部を撃
たれた小尻知博記者が、失血に
より命を落とす。29歳だった▼30年前の
5月3日、朝日新聞阪神支局で起きた襲
撃事件は、まぎれもなく言論に向けられ
た銃口であった。愛国心を強調し、「反
日分子には極刑あるのみ」との犯行声明
が後に送られてきた。卑劣な暴力をふる
つたのが何者か、まだ不明なのが悔し
い▼事件直後、作家の佐木隆三氏が犯行
声明を引きながら怒りを込めて書いてい
る。「銃器を持って新聞社に乗り込み、
無言で発射して逃走する輩が、『日本の
国土、文化、伝統を愛する』心を、持ち
合わせているはずがない」▼敵と味方を
分かち、愛国心をあおる。そんな態度は
今、強まっているかに見える。「反日」
が相手を攻撃する言葉として広がる。米
国では、特定のメディアを名指して、「米國民の敵だ」とまで述べる大統領が
いる▼「私は君の言うことに反対だ。し
かし、君がそれを言う権利は命をかけて
守る」。フランスの思想家ボルテールの
言葉として伝わる。違いと対立を認め、
それでも排除しない。自由な社会が必要
とする鉄則だろう▼事件の資料を展示す
る阪神支局には、血の染みが広がった原
稿用紙が2枚ある。すべて手書きだつた
頃、どんなスクープも街ダネもここか
ら生まれた。小尻記者が書いていたか
もしれない、いくつもの記事を思う。

2017・5・2